

新潟医療福祉学会誌創刊に寄せて —理学療法（士）の歴史と課題—

新潟医療福祉大学医療技術学部
理学療法学科科学科長 黒川幸雄

キーワード： 医学的リハビリテーション PT・OTの養成 規制緩和 PTの社会的身分

History and theme of physical therapy (therapist) at Niigata University of Health and Welfare

Yukio Kurokawa, Ph. D

Keywords : Medical Rehabilitation. PT・OT Training. Deregulation. Promotion of PT

*English Version is available in Niigata Journal of Health and Welfare Vol. 1, No. 1 2001

我が国における理学療法士（Physical Therapist : PT）と作業療法士（Occupational Therapist : OT）の養成は、今から39年前の1963年5月に東京都清瀬市の国立療養所東京病院附属リハビリテーション学院において始まった。しかし開設に至るまでには数年前からの準備的流れがあった。1960年の厚生白書は、健康増進を第1の医学、疾病の予防を第2の医学、疾病の治療を第3の医学、そして第4の医学として医学的リハビリテーションが重要であり、またそのための技術者養成の必要性をうたった。翌年1961年にはニューヨーク大学Dasco博士が来日しPT,OTの必要性を唱えた。1962年には今日の職種名に至る前段で、機能療法（士）、職業療法（士）に関する養成施設開設のための学科名の付与及び法律論上の検討も始まった。そして我が国最初のPT・OT養成施設が開設されることとなった。しかしそのための法律は、「理学療法士及び作業療法士法」（法律137号）として、1965年に公布さ

れた。さらに翌年1966年に第1回目の国家試験が施行され、PT183名、OT20名が合格した。この年には日本理学療法士協会が110名の会員で創設された。同年第1回日本理学療法士学会が東大で「PT管理と運営」というテーマで開催された。

そして今日我が国の理学療法士養成は、39年を経て予想だにできない激増現象を呈し、大きな困難を迎えている。平成13年（2001年）8月現在PT養成校数は131校4903名定員となった。勿論四年制大学も20校定員620名となった。平成12年（2000年）12月4日付けの厚生省健康政策局の「理学療法士及び作業療法士の需給推計に関する意見書」では平成16年（2004年）推計はPTの需要は46000名、供給は37200名、しかし入学定員が5500名となっている。従って2004年以降2,3年以内に需給が逆転すると推測されている。その背景には、我が国の社会的経済的要因が深く関与している。我が国の少子高齢化と保健医療福祉施策と経済に関係した規制

緩和施策が深く関与している。理学療法士の量の拡大は、医学的リハビリテーション発展にとって、一面で大きな力であるが、半面で大きな矛盾を抱え込む事になった。この矛盾を解決するための課題には、大きなエネルギーと発想の転換が必要かもしれない。

学術的には2000年の第35回日本理学療法士学会のテーマは「理学療法の効果」、2001年の第36回学会のテーマは「21世紀の理学療法」－臨床・教育・研究の展望－ということで、今後の医療が取り組むべきEBM (Evidence-Based Medicine: 科学的根拠に基づく医学) に対しても積極的に対応する姿勢を示している。日本理学療法士協会は、学術領域及び職能領域 (PTの社会的身分・待遇・職域拡大など) の問題解決の先頭にたって協会開設以来37年間に涉って努力しつづけてきた。そのことが国民の保健・医療・福祉向上に貢献する意味があるからである。そして学術・職能共に、しっかりとしたシステムを構築し、21世紀に向けた活動を展開する基盤整備が重要である。

20世紀の理学療法は医療分野のニーズに対応して大きな課題も残したが、曲りなりにも発展してきた。しかしこれから21世紀は進出が遅れていた保健福祉の分野での理学療法の質的量的充実が図られねばならない。この分野の課題には大きなエネルギーが必要である。臨床、教育、研究における継続的課題対応で、医療と保健福祉分野が適切に連携できるだけの量的質的向上を確保しなければならない。そこに初めて有効な連携が確立される。

21世紀に創設された新潟医療福祉大学及び新潟リハビリテーション病院・愛広会保健福祉施設は時代の申し子らしく、保健医療福祉を連携・統合し、地域住民・県民のQOLに貢献してゆく発信基地となるように歩みを開始しなければならない。その点で

新潟医療福祉学会の今後の活動が重要である。第1回学会を開催するに当たり理学療法(士)の歴史と今日的課題について簡単ですが述べてみた。